

2024年度第37回ヴェリタス祭のご案内

第37回ヴェリタス祭は、2024年11月1日(金)、11月2日(土)の二日間にわたって開催されます。同窓会では卒業生同士の親睦および交流の場として、11月2日(土)に2号館4階にてティールームをオープンいたしますので、ご休憩・ご歓談の際には是非お立ち寄りください。皆さまのお越しをお待ちしております。

聖学院大学同窓会 定期総会のご案内

以下の通り定期総会を開催します。

ご多忙とは存じますが、ご出席の程よろしくお願いいたします。

日時: 2024年11月2日(土) 11:00~12:00

場所: 聖学院大学7号館7101教室(当日会場の都合により変更となる場合がございます)

議案 ● 2023年度活動報告 ● 2023年度収支決算報告 ● 2024年度事業計画(案)
● 2024年度収支予算(案)

※当日はヴェリタス祭開催中のため、お車でのご来場につきましてはご遠慮下さいますようお願い申し上げます。



聖学院大学同窓会役員募集

聖学院大学同窓会では、活動にご協力いただける役員を募集しております。活動内容は2ヶ月に一回程度のペースで行われる定例役員会(都内にて)への出席、年1回の定期総会の開催、会報誌の発行、ホームページの運営等があります。活動にご興味のある方は、同窓会公式Webサイトのお問い合わせフォームより、投稿理由で「その他」を選択の上、最下部の「近況など」欄にその旨を記入して送信下さい。役員会の見学希望だけでも構いません。

聖学院大学同窓会公式Webサイト
(尚、お返事にお時間頂く場合がありますがご了承ください)

<https://www.seig-dousou.com/>

皆様のご参加を心よりお待ちしております

ご住所等を変更される場合には、同窓会公式ホームページのお問い合わせフォームより変更手続きをお願いいたします。



聖学院大学同窓会会報誌『クロスポイント』 第34号
令和6年10月18日発行

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1 聖学院大学同窓会事務局
E-mail dousou@seigakuin-univ.ac.jp
URL <https://www.seig-dousou.com/>



CROSS POINT



Cross Talk

磯田 和久 / 島田 大輔 / 松永 直人 / 真野 和英

変わりゆく本学と在学生の今を、
覗きに來てみませんか?

"Would you like to come back to your alma mater for Homecoming?"

変わりゆく本学と在学生の今を、 覗きに來てみませんか？

"Would you like to come back to
your alma mater for Homecoming?"



〈ゲスト〉
学生生活部 部長
学生エンカレッジセンター副所長
松永 直人
基礎総合教育部准教授／博士
(スポーツ科学)／バドミントン部
監督(日本スポーツ協会公認
コーチ)／2018年入職、2022年
より学生生活部長



〈ゲスト〉
大学事務局 局長
真野 和英
経営企画部 部長(兼務)／聖学
院高校卒、1992年入職、学内・
法人の様々な部署を経て、2024
年より現職



〈ホスト〉
同窓会 会長
島田 大輔
2005年聖学院大学卒(101)、
2014年より同窓会役員を歴任、
2021年会長就任



〈ファシリテーター〉
同窓会常任幹事
大学事務局 学務部
キャリア支援課マネージャー
磯田 和久
2004年就職センター入職、2012
年よりアドミッションセンター、2022
年より現職



S1 小池学長就任後の学内の変化

磯田 本日はよろしくお願いいたします。最初の質問は、松永部長、真野局長お二人に伺います。昨年4月に小池学長が就任されましたが、学内にどんな変化が生じましたか。

松永 私の肌感覚としては、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類感染症になったことによって大きく様変わりをしたという印象が強く、同時に学生募集に関わるところで、大学の体制にも変化があった1年半だったと思います。

磯田 松永部長は校友会活動にも携わっておられますが、学生の生活はどう変わりましたか。

松永 コロナ禍では校友会活動が停滞してしまい、結果新入生もこれに参加して活動することができませんでした。さらに対面での交流もできませんでしたので、全体的に学生の活動は下火になっていました。

磯田 コロナ禍前、さまざまな活動を経験してきた4年生が卒業してしまったことが大きいですね。そのような状況下、芽を見せ始めた動き、それに対する取り組みなどはありますか。

松永 はい、1、2年生を中心に活発な学生が増えました。これに呼応して学生生活を応援し、学生たちの相談や悩みをワンストップで受けとめる「学生エンカレッジセンター窓口『フィリア』」を新たに開設しました。この窓口では専門スタッフが学生たちの相談に気軽に対応します。

磯田 真野局長はどう観ておられますか。

真野 小池学長は学校法人聖学院の理事長も兼務されておりますので、ご多忙な1年であったことと思います。今年度からは、大学外の方との渉外業務にも積極的に取り組んでおられます。学生募集においては入学定員に手をつけましたが、先を見越した施策であり、常に前を向い

ている状況にあります。

磯田 確かに外部協定や地域連携のトピックが増えましたが、それらは小池学長からのメッセージを受けての動きであったり、学長自らの活動の成果であったりということですね。

真野 はい、数日前にも釜石市に出向かれ新市長にお会いになっています。地域連携では、学生のボランティア活動の地との連携を深める一方で、本学が包括連携協定を締結している13自治体の職員を招き、各自治体が抱えている課題について研究する若手人材育成プログラムも実施しています。また埼玉を中心としています。北関東を意識した学生募集のための広報活動を展開するという意図もあります。

磯田 SDGsや埼玉県とのコラボはいかがですか？

真野 カリキュラムや課外活動におけるSDGsやESDの導入は、サステイナビリティセンターが主管となり彼らが精力的に動いています。具体例としては、IKEAさんとのコラボレーションや埼玉県主催の産学官連携イベントに参加しています。いずれも学生の成長を主眼とした取り組みです。

S2 コロナ禍後の学生気質

磯田 ありがとうございます。新学長就任後の変化について伺ったところで、次に、特に学生の「気質」について掘り下げてみたいと思います。松永部長、お願いいたします。

松永 昨年度、また今年度に入学した学生は、中高生時代にコロナ禍に遭い活動が大きく制限されました。その反動から「多様な興味、活動への渴望」が顕著であると観ています。しかし、なにぶん経験が少ない、とりわけコミュニケーションの機会を奪われてしまった世代でもあります。そこでできるだけ交流機会を設け、縦横のつながりを構築できるような環境づくりに取り組んでいるところです。

磯田 松永部長は実際に授業を担当されておられますが、そこでの印象はいかがですか。

松永 私は体育科目を担当しているのですが、そこでは「できるできない」ではなく積極的、主体的に取り組んでいるかどうか、姿勢を評価しています。コロナ禍前後で比較しますと、やはり全体を引っ張っていく学生が減り、自分の中に閉じこもってしまうような学生が増えていますね。

磯田 コミュニケーションが苦手、あるいは消極的な学生にはどのように対応されているのですか。

松永 牽引役の学生がいるクラスでは、そのリーダーを核にして自然に盛り上げていけるのですが、そうでないクラスでは、私はその役を担う形にならざるを得ません。

磯田 コロナ禍後は学生との向き合い方に、これまでになかった配慮が必要になっているということですね。

松永 そうですね。学生のモチベーションを喚起していく、意識を啓発していく、そういう姿勢が教員側に求められていると思います。

磯田 真野局長はどのような印象をお持ちですか。

真野 コロナ禍ではオンライン授業がほとんどでしたが、これに順応した学生も多くいました。それが5類感染症に変わった途端、大学に來なければいけなくなった。当然にキャンパスや授業でコミュニケーションが必要となり、友達づくりや友人関係にもエネルギーを割くことになります。この環境変化に適応できない学生も相当数います。つまりオンライン授業は、ある意味楽で都合が良かった、皮肉にもそういう学生を生み出してしまったわけですね。この結果、5類移行後に離学者が増えつつあります。

磯田 なるほど、その離学者にはどのように対処されているのですか。

真野 学科によっては1年生に全員面談をしようとしています。離学者が増える傾向にある春から夏にかけてです。フィリアにおいても掲示板を

通じてクラブ・サークルの勧誘を行うようにしています。実際「プロレス好き集まれ!」など趣味レベルで気軽に参加できるものも増えてきました。

磯田 在学生同士が正課外でフォローし合う「学生厚生補導」という概念がありますが、松永部長がフィリアに期待することはどんなことですか。

松永 フィリアが開設された場所は4号館1階の売店があったところで、かつては活発な学生が集まるには格好の場所でした。いろんな学生がふらりと立ち寄って、思いがけない出会いもある、旬な面白い情報も得られる、学生にとってそんな気になるスポットになると嬉しいですね。

S3 今後の大学の方向性

磯田 ありがとうございます。コロナ禍後、そして5類移行後の学生の気質について伺いました。三つ目の質問は、今後の大学の方向性についてです。現在進行中の取り組み、また大学の未来予想図などございましたらご紹介ください。

松永 大学が発展していくためには学生が主役でなければならないと思います。そういう観点からコロナ禍で失った学生のアクティビティをいかに活性化するか、これに尽きると思います。その上で学生厚生棟建設の実現にも取り組んでいきたいと思っています。学生に対しては、まず目標を持って欲しいと思います。卒業後どんな仕事について、どんな働き方をして、どんな生活をするか、将来展望を描いてそこに向かって筋道を立て計画的に動いてもらいたいです。学生時代は失敗が許される期間ですので、失敗を恐れずいろんな経験をしていただきたいと思います。

磯田 私は現在学生のキャリア支援を担当しています。就職活動ではエントリーシートや履歴書の提出を求められますが、そこでは必ず「学生時代に何をやってきたか」の説明を求められます。当然、諸活動に励んできた学生は「待ってました!」とばかりに自信を持って答えます。そのようなこともあり、相談に訪れる学生には普段の生活においてできるだけ多様な経験をすること、そしてその積み重ねを大事にするよう説いています。



本学において諸活動の受け皿が整いつつあるということはキャリア支援課としても朗報ですね。真野局長はいかがでしょう。

真野 はい、大学の方向性を示す顕著な事例を2つほどご紹介します。一つはPBL型と呼ばれる課題解決型授業の実践です。具体例としては、Jリーグ「大宮アルディージャ」の観客動員数向上プロジェクトの受託です。学生と教員が共にこの課題を解決するために知恵を絞り、実際に会場での作業も担うというものです。実はこの授業に参加した学生たちには、誰もが認める大きな変化が現れました。成功体験によって著しい成長を遂げることを私自身実感しています。もう一つは昨年初に念願のパイプオルガンが設置されたことです。これを機に地域の小学校、中学校、高等学校など教育機関の音楽イベントにご利用いただき、本学が情操教育や地域の文化的発展の一助となることも意図されています。この二つの事例は、学内においては課題解決力を有する人材の育成に注力し、学外においては地域社会に確たる存在を示すという点において、本学の方向性を示唆する特徴的なものです。

磯田 学生募集における変化はありますか。

真野 はい、オープンキャンパスでは外部講師を招いて「マイテーマ」という一種の将来目標を掲げることを参加者に求めています。漠然としたものでもよいから、大学進学前に将来のイメージを抱いてみませんか、というアプローチです。端的に申し上げれば、何がしかの目標を持って大学に入ってもらいたい、ということです。

§4 在学生との交流

磯田 ありがとうございます。ここからは松永部長と真野局長それぞれに質問をさせていただきます。在学生と同窓生がこれから良好な関係を築いていくためにはどうしたらよろしいか、まずは松永部長、ご意見をお聞かせください。

松永 まず基本的なルールですが、同窓生から在学生への直接接​​触は原則避けていただきたいと思います。トラブルの回避、防止という理由からです。個別に接触され何らかの指示なり助言をされた場合、在学生は先輩に命令されたと解してプレッシャーを感じてしまいます。原則はキャリア支援課もしくは学生支援課あるいは教員を通してからにいただきたいと思います。

磯田 承知しました。他に同窓会に望むことがあればお聞かせください。

松永 来年度からでも良いのでヴェリタス祭への再出店をお願いしたい

です。それと在学生に対し、社会で活躍されている方の情報をSNS等で伝えたいので、その種の情報を提供していただきたいです。さらに、在学生のSNSを同窓会でもフォローしていただきたいです。

島田 承知しました。同窓会のホームページ上に在学生のSNSへのリンクを貼り、同時に同窓生への告知を行って、各自がこれをフォローするよう協力を依頼してみます。

磯田 松永部長、他にご希望はございませんか。

松永 ジュベナリス祭に同窓会チームも参加されてみてはいかがですか。

磯田 競技等があれば参加するということですね。島田会長、いかがですか。

島田 はい、怪我が心配ですが(笑)。

磯田 続いて真野局長にお尋ねします。同窓会が大学主催の各種イベントに連携する余地はありますでしょうか。あるいは連携を前提とした場合、どういう形であれば連携可能でしょうか。

真野 そうですね。大学のイベント情報に関するSNSを同窓生にも告知し、ヴェリタス祭はもとより公開講座や講演会のご案内をしていく、というのはいかがでしょうか。おそらく同窓生のうち一期生はそろそろ50代の半ばになりましょう。仕事においても日々の暮らしにおいても余裕が出て、これまでとは違う学びをしてみたいと感じ始める頃かと思います。

磯田 島田会長、いかがでしょうか。

島田 同窓会では毎年、ヴェリタス祭がホームカミングの場となるようティールームを設け、そこに歴代の卒業アルバムを用意するなど、同窓生の皆さまの来訪を歓迎しています。ただ、まだまだ十分な成果を得られていませんので、さらに情報発信を続けていきたいと思います。

磯田 会報誌を活用して、学内の諸活動を紹介するSNSのQRコードを紹介するというのはどうでしょうか。

島田 はい、掲載いたします！

磯田 それでは、それぞれ同窓生に向けてメッセージをいただけますか。

真野 同窓生の多くは卒業式でガウンを脱いで以来、一度も大学に戻られていないのではないかと思います。是非ご家族や友人と連れ立ってご自身の原点に戻ってきていただき、当時を懐かしんだり、時代と共に変わっていく母校の今を観ていただきたいと思いますね。

松永 先にお話ししました基本的なルールを厳守したうえで、是非大学



に足を運んでいただき、在学生と関わることで、いろんな刺激を与えてください。かつての青春を懐古され、当時の思いを振り返っていただくことは、自分ごとにとどまりません。おそらくそのような姿、母校愛は、在学生の成長、あるいは大学の発展につながるものだと思います。

真野 ジャストアイデアですが、同窓生が通った学舎、教室に恩師をお招きして授業を行なっていただくというのはどうでしょう。あの先生が同窓生に向けて授業をしてくださる、となれば、かなりの方が参集されるかもしれません。

磯田 確か同窓会の設立30周年記念パーティーでは、恩師の周りに大きな輪ができていましたね。

島田 そうですね。卒業後年月が経っている先輩方ほど、懐かしんでおられたようです。

真野 定期的を実施するなど、ヴェリタス祭に限った話ではないですね。今日はこの先生が担当されますとか、本日の先生のラインナップとか、今後の予定とかを告知することで、同窓生が戻ってくるきっかけになるかと思います。

松永 私はヴェリタス祭の実行委員の顧問でもありますので、メンバーにもこの話を持ちかけてみます。

§5 同窓会の今後

磯田 さてここまで、松永部長、真野局長との対談を経て、最後に同窓会の今後の方針について島田会長に伺いたいと思います。

島田 同窓会は一貫して「在学生へのフォロー」をその目的の一つに掲げています。ヴェリタス祭やボランティア活動の支援も然りです。ただ、同窓生と在学生の橋渡しはそれほど上手くないことも事実です。

磯田 学生ボランティアを支援する「ボランティア・まちづくり活動助成事業」の共催は、同窓会の学生支援活動における大きな位置を占めていますね。こうした目に見える支援以外のアプローチについてはいかがですか。

島田 確かに学生支援の側面で何らかの新規事業を創出することは、役員を含めて同窓会全体の課題であると思います。ただそれを実現するために、まずは人手が必要になります。現在の同窓会が抱える問題はまさにここにあります。

磯田 同窓会が独自に運営する奨学金について、一時期話題となったことがありましたね。

島田 そうですね。まずは同窓会の運営方針の一つである「在学生へのフォロー」という原点に立ち帰り、在学生との接触を増やし、彼らが今何を望んでいるか、その再確認が必要かもしれません。

磯田 コロナ禍以前は、校友会の執行部と同窓会役員との間で、定期的に懇親会を開いていましたね。

島田 直近では昨年のヴェリタス祭後に打ち上げと慰労会を兼ねた懇親会の開催を申し入れたのですが、参加者が少なく実施は見送りとなってしまいました。学生気質への配慮も含め、そこに至るまでの関係強化も必要になりそうです。

磯田 松永部長より同窓生の活動を広報してはどうかとのアイデアを頂きましたが、この点はいかがですか。



島田 あいにく同窓生の多くは同窓会に対する関心が希薄です。社会で活躍されている多くの同窓生にまず同窓会活動への理解と協力を要請する必要があります。同窓生の活躍ぶりを在学生に伝えることの意義とその機会創出について訴求するなど、在学生支援に向けた同窓生の興味関心を喚起していくことが大事になると思っています。

磯田 法人事務局の広報センターでは卒業生の取材をしていますね。このあたりと連携してみるのはいかがでしょう。

真野 同窓会や同窓生が在学生に接する機会は、入学式と卒業式くらいですので、この機会を増やすべく、生涯教育の一貫であるアセンブリーアワーにおいて、同窓生を積極的に呼び寄せることは有効かもしれません。アセンブリーアワーは学科が主体となっていますので、学科の先生との連携を取っていただくといったことが必要になるかもしれませんが、実際子ども教育学科では、教育に従事している先輩をお呼びしています。

島田 ありがとうございます。ヴェリタス祭における同窓会ティールームは「卒業生の集い」をコンセプトにしていますが、在学生と同窓生が交流する場としてもアピールしてみます。

磯田 いずれにせよ、大学から同窓会にしっかりメッセージを伝え、同窓会と同窓生全体にこれを拡散させる、こういった流れができると良いですね。

島田 それが理想ですね。大学と同窓会が連携していけば、大きな効果が出せると思います。

真野 再びジャストアイデアですが、同窓会でオリジナルのネクタイやタオル、Tシャツ等のグッズを製作し販売してみたいはいかがですか。ちなみに聖学院中高の文化祭では同窓会も出店していて、各種グッズを販売しています。OBがまとまって応援するときや活動するとき「このTシャツを着よう」となるわけです。実現すればヴェリタス祭やジュベナリス祭で「それ着てやろう」となるかもしれません。協賛という形でもよいですね。提供者として、同窓会のプレゼンスを主張できればよいので。

磯田 島田会長、今日の座談会を踏まえて、最後に同窓生の方々、また関係者の方々にメッセージをお願いします。

島田 今日は皆さまから貴重なアイデアやご意見をいただきました。また大学のさまざまな取り組みについてもご紹介いただきました。それらを同窓生にしっかりと伝えし、大学に戻ってきていただくきっかけとなることを期待しています。受験期のお子さまがいいらっしゃるご家庭にあっては、聖学院を目指すきっかけになれば幸いです。本日はありがとうございました。

磯田 まずは同窓会の役割が大きく責任あるものになっていきますので、是非よろしく願いいたします。本日は貴重なお時間をいただきありがとうございました。

最近の主な活動

2023年 10月 | 同窓会設立30周年記念パーティー



2023年10月21日(土)18時30分より、パレスホテル大宮(4階 ローズルーム)にて同窓会設立30周年記念パーティーを開催いたしました。当日は同窓生をはじめお世話になった先生方、退職された教職員の方々など、総勢317名(卒業生283名、教職員・旧教職員34名)が一堂に会し、盛大なパーティーとなりました。

パーティーは鈴木雄亮副会長の司会で始まりました。最初に同窓会から聖学院大学に対して、寄付目録を贈呈しました。同窓会では毎年、学生バス運行のために100万円、大学の施設設備充実(学生厚生棟建設)のために50万円の寄付を続けています。今年はこの機会を捉えて、毎年行っている支援を形に表すことといたしました。

続いて来賓を代表して、学校法人聖学院理事長・聖学院大学学長の小池茂子先生よりご挨拶をいただきました。寄付のお礼やお祝いの言葉とともに、大学の近況についてお話をいただきました。その後、坂村哲也学幹事による乾杯の発声で歓談の時は始まりました。おいしいお料理をいただきながらお世話になった恩師や懐かしい友人との再会を喜びつつ、あちらこちらで学生学時代の思い出話や近況報告などに花が咲きました。

歓談の最中は、30年分の卒業アルバムから選りすぐった写真を20分程度のスライドショーにまとめたものを上映しました。通して

見ると、世代ごとの流行の違いなどが良く表れていて、食事の合間に手を止め懐かしそうに見入っている姿も見受けられました。また列席された教職員、旧教職員の方々のご紹介があり、退職された教職員を代表して清水正之先生(前理事長・学長)より近況を交えつつご挨拶いただきました。

最後に島田大輔会長の挨拶をもって、20時30分にパーティーは閉会となりました。出口では記念品(同窓生には同窓会オリジナルタンブラーとオリジナルエコバッグ、教職員・旧教職員には焼き菓子とオリジナルエコバッグ)をお渡ししました。あのことと変わらない笑顔が懐かしく、余韻はそのままに次のお店へと向かう姿もちらほらと見受けられました。

なお出口で聖学院大学への寄付(施設設備充実)を呼び掛けたところ、多くの方々のご協力をいただきました。当日集まった寄付金は190,788円となり、後日、小池理事長・学長より直筆メッセージの入った受領書をいただきました。

今回のパーティーでは1期生(1992年3月卒業)からこの秋学期の卒業生(2023年9月卒業)まで、多くの同窓生とともに和やかな時を過ごすことができました。パーティーに足をお運び頂いた皆さま、本当にありがとうございました。また今回一緒にできなかった皆さま、いつかお会いできる日を心よりお待ち申し上げます。

2023年 11月 | 第36回ヴェリタス祭

2023年11月3日(金・祝)、11月4日(土)の二日間にわたって、第36回ヴェリタス祭(学園祭)が開催されました。同窓会では卒業生同士の親睦および交流の場として、両日とも2号館4階にティールームをオープンしました。テーブルの上に並べられた歴代の卒業アルバムを眺めながら、ソフトドリンク片手に近況の報告や思い出話に花が咲きました。また11月3日(金・祝)には聖学院大学7号館7101教室において、定期総会を開催しました。議事次第および議事録は聖学院大学同窓会の公式noteにて公開しています。
(https://note.com/seig_dousou/)



2024年 6月 | 集中会議

例年5月下旬から6月上旬に1泊2日で行っていた研修会合宿でしたが、今年はコロナ後の行動制限緩和やインバウンド需要の急速な回復などの影響があり、同窓会研修費として確保していた予算枠内(15万円)で宿泊できる研修施設がこの時期になかったことから、今年度も宿泊研修を見送り、2024年6月15日(土)、赤羽会館にて宿泊を伴わない集中会議として実施しました。今後の学生支援の在り方について、また同窓会の中長期計画について、など様々な視点から意見やアイデアが出されました。



2024年 6月 | 聖学院大学ボランティア・まちづくり活動 助成事業公開審査会&ドネーションパーティー

同窓会は毎年、学生のボランティア活動を応援していますが、今年度も聖学院大学ボランティア活動支援センター／地域連携・教育センター主催の「ボランティア・まちづくり活動助成事業」に協賛いたしました。

この事業は上尾市社会福祉協議会(赤い羽根共同募金)との共催で、地域の課題解決に取り組んでいるゼミ・ボランティア団体等を対象に助成金を交付するものです。助成先の選考と助成額の決定は公開審査によって行われます。

2024年6月22日(土)、大学キャンパス4号館4401教室を会場にして公開審査会が行われ、同窓会からはボランティア経験のある同窓会役員が審査員として出席しました。審査会の会場では教職員・卒業生・地域の皆様にもご参加いただき、その場で寄付を募る「ドネーション(寄付)パーティー」も同時に行われました。ドネーションパーティーは、参加者が1口1,000円のチケットを購入し、応援したい団体にチケットを投票して寄付を行うイベントです。審査会では学生たちが活動を行う上で必要な経済的支援を求め、プレゼンテーションを行います。発表を聴いた大学同窓会役員、

赤い羽根審査員、当日来場した地域の方々から、それぞれ助成・寄付を受けられる仕組みになっています。

今年度は4団体の助成が決定しましたが、それぞれの団体が工夫を凝らして活動している様子が伺えました。今後とも同窓会では、学友会活動や卒業関連事業などへの支援を通して、学生が快適なキャンパスライフを送るための協力を積極的に行っていきたいと考えています。



学生・卒業生の活動関連サイト・SNS

Vois SEIG学生団体情報サイト
<https://seig-peernews.jimdofree.com/>



聖学院大学 ヴェリタス祭のご案内
https://x.com/seig_veritas



法人広報センターの卒業生紹介サイト
<https://note.seig.ac.jp/m/m234a0dd3901d>

